NIE実践報告

1．タイトル：**科学に興味を持つきっかけづくりとしての新聞の活用Ⅱ**

2．学校名

長野県長野南高等学校

3．実践者名（代表者名）

佐藤洋一

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

生物Ⅰ　2講座 76人

6．単元（本時の学習課題）名

特定の単元とは関連付けず、通年で実施。

7．目標(狙い)

生物・医療・食・農業・環境など生物学に関わる新聞記事を読み、要約と感想を書くことで、「生物学の視点から社会問題を考える力」「自分の意見を相手に伝わるように表現する力」の向上を目指す。

8．評価の視点

年度当初と年度末に全生徒にアンケートを実施し、実践の妥当性を評価した。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

通常の授業展開とは切り離した形で、年10回新聞記事の要約と感想・意見記入の課題を家庭学習として課し、最後に最も印象に残った記事の感想を発表する発表会(3時限）を実施した。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

課題の実施方法
①提供された新聞各紙より、生物・医療・食・農業・環境など生物学に関わる新聞記事を教師側が選び、この記事に関する要約と感想を提出させ、添削・評価を実施（年10回）。
②授業内では、要約ポイントを説明するにとどめ、極力、自宅で課題に取り組ませた。
③課題の評価は原則、記事の要点を赤で囲む：2点、要約：4点、感想か意見：4点の計10点で採点。

（留意点）
①課題提出は「専用のファイルにつづった形」を義務付け、学びの成果を視覚的に捉えられるように工夫。
②まとめ方の優れたものや特徴的な意見・感想については印刷し、全生徒に配布。自分以外の意見について触れる機会を作った。
③複数の科学記事が掲載されているタイプの紙面を利用し、自ら要約ポイントを考えながらまとめる課題にも挑戦させた（年2回）。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

アンケート集計から、「以前より新聞を読むようになった」「文章から大切な部分を読み取る力に自信が持てるようになった」「文章を書く力に自信を持てるようになった」「科学系の社会問題に以前より興味を持てるようになった」という結果がでた。

12．成果と課題

今回の実践を通じ、「教師が何かを教えて生徒が成長する」のではなく、「課題のキャッチボールの中で生徒たちが自発的に成長する」という過程を実感することができた。生徒のみならず、教師に前述のような達成感がある点で、新聞の利用は優れた実践方法であるという確信を得た。
今後は、新聞記事の要約と感想・意見のまとめを中心にした実践を土台に、自分の意見の発表の場やお互いの意見交流の場を複数回設けることで、科学の諸問題に関して、自ら積極的に関わろうとする力を育てたいと考えている。